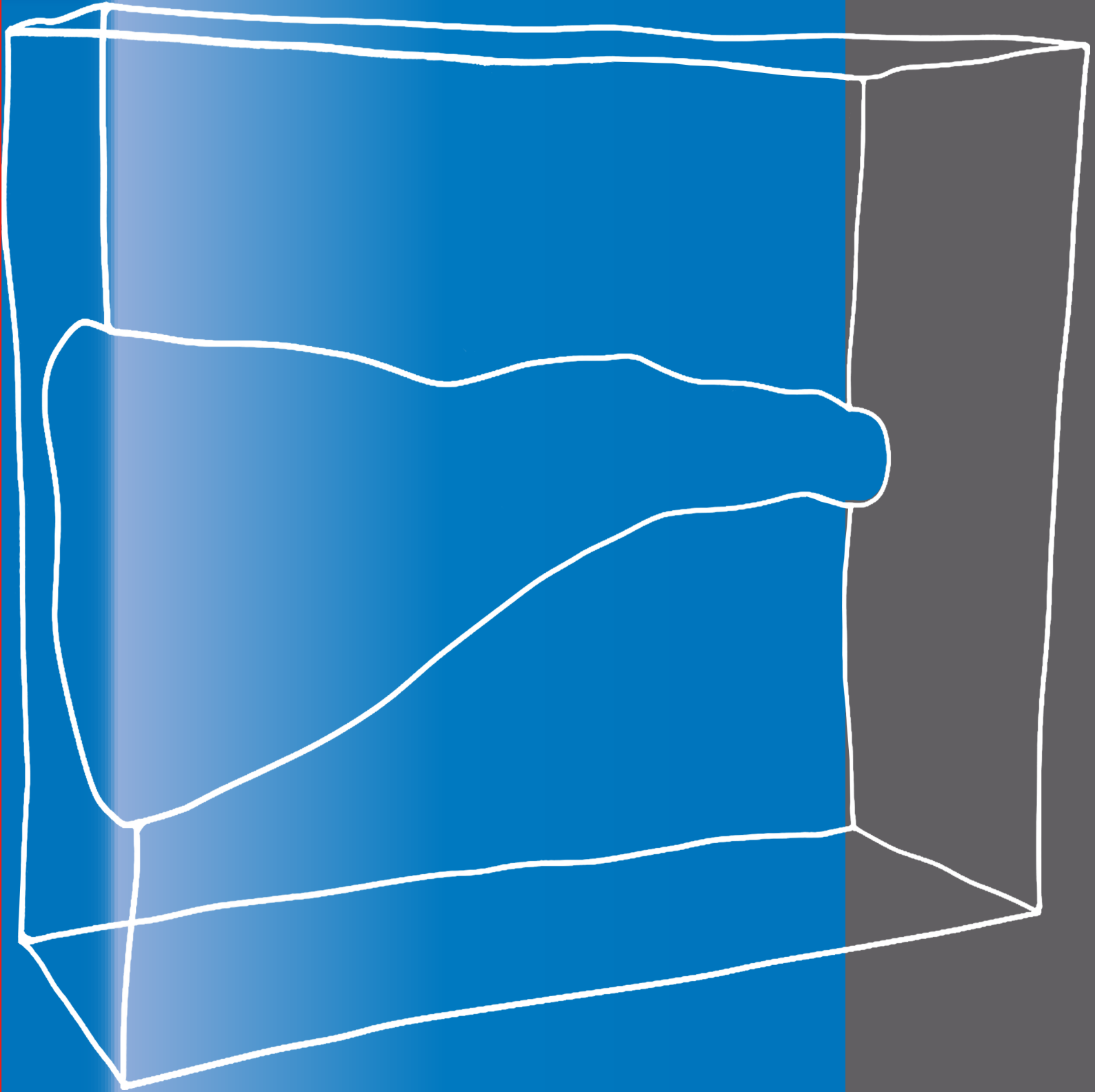


+ | a  
r  
t



空気をつかまえる 浮川秀信  
catch the air UKIGAWA Hidenobu

2021  
10/6-16

浮川 秀信 UKIGAWA Hidenobu

catch the air

2017年の前回(+1art)では「エアリウム」と題しての個展であった(アクアリウムならぬエアリウム)、今回も殆ど変わらず線材を使って曲がりくねった線とその空気感を考えながら作品を作る。しかし、物理的な空気であれ雰囲気としての空気であれ、空気感を大切に考えている造形家は沢山おられる。そこで空気を積極的に捕まえることを考えて、空気の動き・風の作り出す情景を捏造したり、極端には空気をザルで捕まえる、そんな突拍子も無いことを考えながらの造形。

10 / 6 (水) - 16 (土)

PM 12 - 7 (最終日 PM 5 まで)  
休廊 日・月・火曜



大阪生まれ、1968年「あの画廊」にて初個展(F・R・Pによるオブジェ)以後素材にこだわることなく造形を試みている、ここ10年くらいはピアノ線を使用。  
近年の個展 2020, 2016年 gallery 勇斎(奈良)、2019年 gallery 猫亀屋(大阪)、2017年 +1art(大阪)、street gallery(神戸)。

# 空気をつかまえる

禅の公案に「ヒョウタンでナマズをつかまえる」というのがあるそうです。どうしたらヒョウタンでナマズをつかまえられるか? という問題ですが、普通に考えたらヒョウタンの小さい口にナマズを押し込むのは、どう考えても無理。ナマズも人が近づいたら逃げていくだろうし。

浮川秀信は、細いピアノ線で空気をつかまえる、と言います。それも1本あるいは数本のピアノ線だけで。これも普通に考えたら、5ミリほどの歪んだ細い線で空気をつかまえるのは到底不可能です。では、どうやって?

これを理解するには、公案を解くのと同じくちょっとした飛躍が必要です。4年前の+1artでの個展の折に浮川はこう書いています。「確かなものと不確かなもの、全体の揺らぎ - アクアリウムならぬエアリウム」。ここにヒントがありそうです。

+1art カワラギ



+1art

542-0012 大阪市中央区谷町6-4-40  
www.plus1art.jp TEL 06-7712-6685



谷町六丁目駅④ 徒歩1分  
出口右手の石段を下り小路を左に